

市の境界線を越えて、隣接する市の学びに役立つ場所・スポットを巡る散策取材。今回は特別版として、お正月に調布市の「調布七福神」を訪ね歩いた時の様子をお届けします。



調布七福神を巡る

1月5日(金)、2024年の活動スタート。生涯学習だよりの取材で「調布七福神巡り」に出かけた。正に新春の好天に恵まれ、京王線仙川駅にメンバーが集合、10時に出発した。

まずは、駅に程近い「昌翁寺」へ。祭神は長い頭の寿老人、無病・長寿・子宝をさずけるといわれている神様だ。ここを皮切りに7つの寺を巡る。

駅の方に一旦戻って南に移動。実篤公園を横切って2番目のお寺、「明照院」に向かった。祭神は弁財天、七福神の紅一点。八臂（8本の腕）を持ち十五童子を従えた姿で、諸芸、智弁、福德を司る神様だ。

京王線つつじヶ丘駅に向かい、バスで七福神巡りの3番目「深大寺」へ。仏法の守護神・毘沙門天をお祭りしたお寺の境界は、正月の賑わいである。一行は“深大寺蕎麦”で昼食にすることに。蕎麦屋の順番待ちの間、公園のベンチにて持込み酒で年の恵みを祈念して乾杯した。



手打ち蕎麦を堪能し、気合を入れ直して4番目の「祇園寺」を目指す。祭神は福祿寿で、延寿、健康、商売繁盛を願う神様。5番目のお寺は京王線布田駅近くの「布田常性寺」、福の神・布袋尊が鎮座するお寺だ。

着いた頃には足が重くなってきたが、頑張って次を目指す。あと残すは2つ。1時間余りの行程である。

6番目は布田天神社近くの「大正寺」。商売繁盛、福德円満の神様・恵比寿神はおなじみの釣り竿を持ち鯛を抱えた姿。参拝を済ませると、目指すは西調布にある「西光寺」。

西調布はさすがに遠いが、行程の最後のお寺になるので足取りは軽い。祭神の大黒天は、正月の7日間だけその

お姿を拝見できる。今回は貴重な機会だ。

長い道のりだったがなんとか15時35分に到着、これにて新年の「七福神巡り」は完遂。約18,000歩を歩き切った達成感が心地よい。

みなさんも、2025年の年明けには是非トライしてみてください。おすすめです。（渡邊繁雄）



自由の松

近頃は秋が短いせいか、10月の声を聞くと早くも正月の七福神巡りに思いをはせることがある。気軽に行ける調布七福神のうち、ご利益が長寿、金運、幸福の福祿寿がいらっしゃる祇園寺の境内には2本の赤松がそびえている。「自由は死せず」の板垣退助の手植えとされ、自由の松と称される。

福祿寿のご利益「幸」は、願う人のおかれる状況により様々であろう。地球上には（少なくとも戦乱、言論統制などの無い）自由という幸を切望する多くの人々がいる。彼らに幸あれかし。（中濱敬文）

七福神のように、各地には伝統的な行事が受け継がれています。編集メンバーにたずねてみました。

必見！京都の「時代祭り」

私は中学、高校を歴史の詰まった京都で過ごした。行事で忘れられないのが10月22日の「時代祭り」だ。

この祭りは明治になってから始まった行事で、千有余年にわたっての歴史風俗絵巻として披露されている。各時代の行列の衣裳や祭具は、厳密な時代考証をもとに作製されたものだそうだ。約2,000名の行列は、明治の維新勤王隊を先頭に明治維新から平安京が造営された延暦時代へとさかのぼっていく。

日本人にとって必見の行事だ。（鈴木禎治）



くり祭り／府中の秋の味覚 - 栗

お手伝いしている農園には、約100本の栗林がある。毎年9月の声を聞くと、嵐がやってきてつややかな茶色の実を落とす。早朝からの栗拾いが日課、落ちたのを放置するとすぐ虫のご馳走となる。

武蔵野台地は古来栗が良く育ち、府中ゆかりの川崎平右衛門さんが小金井の新田で栗栽培を奨励し、将軍に献上したと伝わる。今は、都市化の波に飲み込まれ、栗林はあまり残っていないが、大國魂神社の秋季祭り・くり祭り（9月27・28日）は江戸の賑わいを今に伝える。秋は大地の豊穡に感謝する季節だと思ふ。（奥野英城）

